

人 に 本 あり

特別編

一冊の本との出会いで進路が決まる
ことがある。有名人ではないけれど、
今の充実した自分をあの本なしには語
れない……春四月、飛び立つ若者に知
ってほしい「人と本」の物語をお届け
しよう。身近な人やあなた自身に「人
生を変えた一冊」はありませんか。

三畳に満たない、殺風景な
空間が坂上香さん(35)の仕
事場だ。徹夜明けの目が赤い。
「夕方から試写なので」と、
ビデオ編集のモニターに目を
凝らす。テレビディレクター
という一見華やかなイメージ
だが、実際の制作現場は3
K職場。「今年は元旦以外、
休んでません」と笑う。

この仕事に就いてまもなく、アリス・ミラー『魂の殺人』(山下公子訳、新曜社)

幼児虐待、我が身に重ね

リカの大学に
進み、南米で
貧しく抑圧さ

「あのヒットラーも虐待さ
説き落とした。そのドキュメ
ントに押しかけ、四時間かけて口
を押しつけてきた。中学では
激しいいじめにも遭う。アメ
リカの大学に
進み、南米で
貧しく抑圧さ

「私の事
が書いてある」。それは、親
が子に「あなたのためを思う
からこそ」と押しつけるしつ
「あなたの番組を作りたい」
を傷つけ、その後の人生を歪
めてしまふかを、精神分析の
ア嫌いで知られる著者は返事
をくれない。直接ヨーロッパ
に押しかけ、四時間かけて口
を押しつけてきた。中学では
激しいいじめにも遭う。アメ
リカの大学に
進み、南米で
貧しく抑圧さ

れた人々を間近に見ること
で、本来の自分の進路に目覚
めていった。

最初、この番組の企画を話
すと「私を責めているのね」
と母は泣いた。「でも、何年
かたったら、こう言ってくれ
たんです」「作ってくれて、
ありがと」と

今月二十八日に、新たな番
組がNHK衛星で放映され
る。テーマは少年犯罪と、そ
こからの更生だ。

(石田 汗太)



テレビドキュメンタリー・ディレクター

坂上 香さん